

特110

707

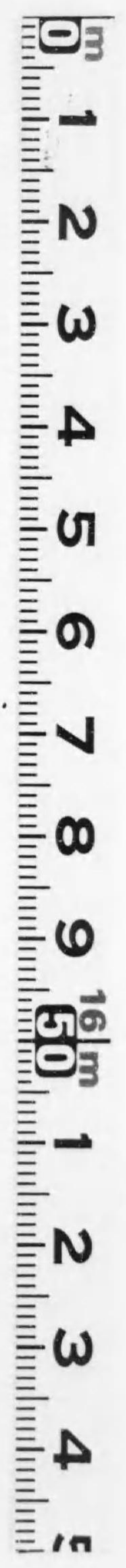
軍事指針社編纂

原則之葉

第十二篇

野外要務解集 卷ノ一

東京 軍事學指針社



始



- 統 御……………三
- 經 理……………三
- 〔備 考〕……………四
- 衛 生……………五
- 律 　 　ス……………五
- 〔明・文・解・義〕……………五
- 戰鬪序列ノ定義……………六
- 戰鬪序列ニ具備スヘキ要件……………六
- 〔解 説〕……………六
- 戰鬪序列ト其兵力……………六
- 〔備 考〕……………八

○軍ノ戰鬪序列……………八

- ナポレオン……………九
- クラウゼウイツチ……………一〇
- 一八五九年……………一〇
- 一八六六年……………一〇
- 一八七〇年……………一〇
- 明治三十七八年戰役……………一一
- 戰略單位……………一三
- （定義）……………一三
- （戰略單位決定ノ要旨）七條……………一三
- 統御。經理。衛生……………一五

〔備考〕……………二七

全戦役間ノ統御……………二八

全戦役間ノ經理及衛生……………二八

○戦闘序列カ動員ヲ行ヒタル時ニ令セラルル理由……………一九

○戦闘序列ハ勅命ニアラサレハ變更スルヲ得ス……………二〇

〔誤解〕

○全軍……………二二

○一却……………二二

○戦闘序列(四條)……………二二

○統御經理及衛生……………二三

○全戦役間……………二三

〔注意〕

(五ヶ條)……………二四

〔戦史〕

○獨立混成旅團ノ戦闘序列……………二五

○獨立師團ノ戦闘序列……………二五

●獨逸野外要務令對照義解

●明文……………二六

〔義解〕……………二六

野戦軍……………二七

守備隊……………二八

目次

●明文(野戰軍)……………二九

〔義解〕……………三〇

(一)一八六六年戰役……………三〇

(二)一八七〇年戰役……………三一

特種部隊……………三五

●明文(軍圖)……………三六

〔義解〕……………三六

獨逸近衛軍團編制表及戰時人員……………三七

○軍團戰時編制ノ概要……………三九

●明文(歩兵一師團)……………四一

〔義解〕……………四二

●明文(豫備師團)……………四三

〔義解〕……………四四

〔備考〕……………四五

○軍隊區分ニ關スル獨逸ノ學說

(戰鬪序列ノ性質)……………五〇

(意義)……………五〇

(平時團隊配置並編制ト戰鬪序列トノ關係)……………五〇

(戰鬪序列決定ノ基準)……………五一

(戰鬪序列決定ト騎兵)……………五二

○軍ノ戰鬪序列ハ軍團單位ト成スヘキカ師團單位トナスヘキカ

(一)統率ノ難易ヨリ生スル決定……………五七

(二)行軍長徑ヨリスル結論……………	六〇
(三)行李輜重等ノ設備ヨリスル決定……………	六一
(四)戦闘統率上ヨリスル結論……………	六二
日本國軍ノ状態ト對照……………	六五

原則之彙 第十二編

野外要務解集 卷ノ一

● 戦闘序列

〔明文〕

天皇ハ、全軍或ハ一部ノ動員ヲ行ヒタル時、『戦闘序列』ヲ令シ、以テ全戦役間ノ統御、經理及衛生ノ關係ヲ律ス。

此戦闘序列ハ勅令ニアラサレハ變更スルヲ得ス。

〔字義〕

○天皇

憲法第十一條。天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス。

○全軍

戦闘序列

帝國國軍ノ全部ヲ謂フ。

○或ハ一部

「一部」トハ帝國全軍ハ中ハ「一部」ヲ稱ス。

○動員

帝國陸軍ヲ平時ノ體勢ヨリ戰時ノ體勢ニ移ス業務ヲ動員ト謂フ。

〔備考〕 海軍ニ於テハ陸軍ノ動員ヲ「出帥準備」ト謂フ。

○戰鬪序列

「序」ハ順序、秩序等ノ序ニシテ、「列」ハ配列、列次等ノ列ナリ。

之ガ爲、單ニ戰鬪「序列」ト稱スル字義ノ上ノミヨリ之ヲ解スル時ハ、「戰鬪ニ參與スル順序配列」ナル意味ニシテ、古代ハ所謂之カ戰鬪序列ニ依リテ、一隊ノ組織并戰鬪參加ノ順序ヲ規定シタルモノナリト

雖、現今ニ於ケル「戰鬪序列」ノ意義ハ全ク之ト異リ、「一作戰軍ノ編

組」(編組||編合組織)ヲ稱スルモノナリ。

○全戰役間

一戰役ノ終始ヲ通シテノ意ナリ。

○統御

統帥駕御ノ意ナリ。即チ軍隊ノ上ニ立チテ軍隊ヲ其令下ニ屬セシムルヲ謂フ。換言スレバ軍隊行爲ノ全般ニ關シ其指揮權ノ掌握ヨリ、軍紀、風紀、訓練、給養等ニ關スル事項ニ至ルマテノ諸權ヲ保有スルコトヲ謂フ。即チ全般ノ事項ヲ包含掌握スヘキ統帥權ノ行使ヲ「統御」ト略稱ス。

○經理

戰鬪序列

軍需品ノ供給并保存ノ方法等ヲ制定スル所ノモノヲ謂フ。

四

〔備考〕 經理ニハ元來二個ノ意義ヲ有ス。廣義ノ經理及狹義ノ經理之ナリ。「廣義ノ經理」トハ凡ソ陸軍ノ目的ヲ達スルニ要スル百般業務運轉ノ作用ヲ總稱スルモノニシテ、例ヘバ編制、教育、徵兵事務ノ如キモノニ至ルマデ悉ク之ニ網羅セララル、モノナリ。「狹義ノ經理」トハ人馬ノ給養、軍需品ノ補缺、金錢物品ノ保管出納等ニ關スル事項ヲ指ス。今茲ニ掲ケラル、「經理」ハ作戰ニ必要ナル經理業務ヲ謂フモノナルカ故ニ、主トシテ狹義ニ關スル經理ニ屬スルモノナリ。然リト雖又作戰ニ必要ナル經理業務ノ中ニハ之ヲ全ク狹義ノ範圍内ニノミ包含セシメ劃然タル區分ヲ成スコト能ハサルモノアリ。故ニ野外要務令戰鬪序列

ノ明文ニ掲ケラル、所ノ「經理」ハ之ヲ廣義若クハ狹義ノ何レカニ屬セシメント欲シ強ヒテ之ニ判然タル決定ヲ與ヘントスルハ抑誤解ナルコトヲ知ルヲ要ス。即チ寧ロ最初ヨリ之等ノ區別ヲ附スルコトナク茲ニ謂フ所ノ「經理」トハ作戰ニ必要ナル經理業務ヲ總稱スルモノト解スルヲ至當ナリトス。

○衛生

人馬ノ保育、其戰鬪能力ノ維持増進及傷病者ノ救療ニ關スル事項ヲ謂フ。

○律ス (獨 Regelnd 英 To regulate)

整齊スル、規制スルノ意ナリ。即チ、戰鬪序列ニヨリテ統御、經理及衛生ノ關係ヲ制定スルヲイフ。

〔明文解義〕

吾人ハ明文ニ基キ左記事項ヲ知ルコトヲ得。

○戰鬪序列ノ定義

戰鬪序列トハ動員ヲ行ヒタル時、勅命ヲ以テ令セラル、所ノ全戰役間獨立シテ作戰シ得ヘキ一作戰軍ノ編組ヲ謂フ。

○戰鬪序列ニ具備スヘキ三要件

- 一、全軍或ハ一部ノ動員ヲ行ヒタル時、天皇ノ令セラルヘキコト。
- 二、全戰役間ノ統御、經理及衛生ノ關係ヲ律セラルヘキコト。
- 三、勅命ニ非サレハ變更スルヲ得サルモノタルヘキコト。

〔解説〕

○戰鬪序列ト其兵力

明文解義ニ基キ、吾人ハ戰鬪序列ニ具備スヘキ三條件ヲ知ルコトヲ得タリ。而シテ之カ要件中「兵力」ニ關シテハ何等明文ノ指示スル所ナキ事ニ着眼スルヲ要ス。即チ、戰鬪序列ハ其兵力ノ大小ニハ何等關係スル所ナキモノニシテ、其作戰軍ノ兵力如何ニ關セス、戰鬪序列ニ具備スヘキ上記三要件ヲ具有スル時ハ、之ヲ以テ完全ナル戰鬪序列ト稱スルヲ得ルモノナリトス。初學者往々ニシテ、「戰鬪序列」ト云フ時ハ常ニ軍若クハ師團以上ノ兵力ヲ有スルモノノミヲ聯想シ軍若クハ師團等ニ就テイフニ非レハ之ヲ戰鬪序列ト稱呼シ能ハサルモノトナリトノ觀念ヲ有スルモノアリ。是レ戰鬪序列ノ原則ヲ誤解セルモノナリ。

蓋シ右誤解ノ原因スル所ハ戰鬪序列トハ通常多ク「軍」ノ編組ヲ令達

セラルル時ニ於テ、使用セラルルヲ常トスルヨリ生シタルモノナルヘシト雖、戰鬪序列ノ原則上ヨリ言フ時ハ、兵力トハ全ク無關係ナルコトヲ熟知シアルヲ肝要トス。

〔備考〕

○軍ノ戰鬪序列

軍ハ幾何ノ戰略單位ヲ以テ編成セラルルヲ適當トスヘキヤハ、過去戰役ノ經驗ニ依リテ、斯界既ニ定論アルモノトス。

今二個ノ戰略單位ヲ以テ之ヲ編成スルトハ、情況ニ依リ其一個ヲ他ニ派遣スルノ必要ヲ生シタル場合ニ於テ、軍司令官ハ之カ爲一個ノ戰略單位ヲ殘スノミニシテ、當初ニ於ケル軍ノ編成目的ヲ貫徹スル能ハサルノ虞アルニ至ルヘシ。又翻ツテ戰略單位

七個以上ニ過クルトキハ掌握ニ不便ナルカ爲之カ統帥一途ニ出ツルコト能ハサルノ不利ヲ來スモノトス。之カ爲「一軍ハ三乃至六個ノ戰略單位及騎兵若干團ヲ以テ恰適トス」トハ目下兵學者ノ輿論タルニ至レルモノトス。即チ軍ノ戰鬪序列ヲ五、六個ノ戰略單位ヲ以テスル說ニ歸結ス。但シ、交通及通信機關ノ著大ナル日進ノ發達ヨリ漸次統帥ノ容易ナルニ至レル傾向ハ將來猶右ニ揭ケタルヨリ以上ノ軍ノ編成ヲ豫想シ得ルモノナルコトヲモ、併セ記憶スルヲ要ス。

今之ヲ歷史上ヨリ觀察スルニ

ナポレオン　ハ大單位五個ヲ以テ指揮ニ適切ナルモノトナシ、約十五萬人ヲ九個ニ區分シテ統率セルコトアリ。

クラウゼウイツチハ軍ノ單位數ハ八個ヲ適當トシ最大限十個ニ至ラシムヘキモ、其以上ニ至リテハ命令ノ徹底ニ支障ヲ來シ、其統帥容易ナル能ハサルモノトナセリ。

一八五九年、佛奧戰爭ニ於テ、奧國ハ十六個ノ單位ヲ統帥シテ失敗ノ經驗ヲ嘗メタリ。

一八六六年、普奧戰爭ニ於テ奧北軍總司令官、ベチデツク將軍ハ軍團八個及騎兵師團四個及軍豫備砲兵等十四個ノ多數單位ヲ指揮セル爲、命令常ニ普及セスシテ連敗ノ一因ヲ成セリ。

一八七〇年、獨佛戰爭ニ於テナポレオン三世ハ始メ軍團八個、豫備騎兵、豫備砲兵等十個單位ヨリ成ルライン軍ヲ統率セシト雖、指揮徒ニ錯雜シ後之ヲ三分シテ「軍ヲ」編成スルニ至レリ。

明治三十七八戰役　クロバトキンハ遼陽ニ於テ軍團八個騎兵師團四個ヲ指揮セリ、而シテ軍ノ多大ナル爲ニ臨時軍ヲ編成シ、南部及東部ニ區分シタルモノハ敗衄ノ一因タルヲ免レス。

古來戰鬪序列ニ關シ其主ナルモノヲ舉クレハ右ノ如シ。今ヤ通信、交通ノ科學的發達ハ長足ナル進歩ヲ爲シ、ナポレオンノ所謂五個單位說ハ既ニ適當ナラサルニ至リ、即チクラウゼウイツチ論スル如ク八個單位ヲ採用シ若クハ之ヲ十個トナスモ亦必スシモ妨ケサルモノノ如シ。然リト雖、今若シ軍團八個、騎兵師團二個ヲ以テ編成セル一軍ノ戰鬪人員ハ二十八萬、馬匹八萬ノ數ニ達スヘク、之カ行軍並戰鬪正面ハ著シク擴張シ、加フルニ補給困難ナルニ至リ、通信交通ノ發達ヲ以テスルモ、斯クノ如キ著大ナル行軍並戰鬪正面ハ未タ適當トスル能ハ

ス。然リトセハ、軍團編成ヲ以テスル軍ノ戦闘序列ハ其正面及補給ノ關係ヨリシテ五乃至六個ノ軍團ヲ以テスルヲ適切トスルニ至ルモノトス。

以上ハ軍團編制ヲ以テスル戦闘序列ニ關スル一般ノ輿論ナリトス。吾國ノ如キ師團單位制ニアリテハ、行軍並戦闘正面及補給ノ關係ヨリシテ軍内ノ師團數ヲ減少スルノ必要ヲ認メス。唯命令單位數ノ徒ニ多大ナラサルニ顧慮スヘキモノトス。

之ヲ戰役ノ實驗ニ徵スルニ、第二軍ハ奉天戰ニ於テ、師團四、後備旅團三、騎兵旅團砲兵旅團重砲兵旅團各一ヲ有シ、始終更ニ統率上ノ支障ヲ感ズルコトナシ。後會戰後ニ於テ第二軍司令官ハ更ニ師團六、後備旅團三、砲兵及重砲兵旅團各一合計十一個ノ單位ヲ統率セリ、此

單位ヲ以テ戰鬥ニ參與スルコト無カリシト雖、實驗上支障ヲ來スヘシト成ス能ハス。

以上ノ學說並實驗ヨリシテ、吾國ノ如キ師團單位制ノ國軍ニ於テハ、軍ノ戰鬥序列ヲ十個單位ヨリ作爲セシムルモ敢テ支障ナキモノナルノ結論ヲ得ヘシ。

○戰略單位

(定義)

戰略單位トハ諸兵種ヲ有シ、獨立シテ作戰ヲ終始シ得ヘキ最少ノ單位ヲ謂フ

(戰略單位決定ノ要旨)

(五。マテハ戰鬥序列ニ具備スヘキ要件ヲ示スモノトス)

一、諸般各種ノ情況ニ應シ獨立シテ作戰ヲ遂行シ得ル爲、諸

兵種ヲ以テ編成セラレサルヘカラス。

二、獨立シテ作戰ヲ遂行スル爲之ニ要スヘキ、輜重、經理及衛生ニ關スル諸機關ヲ具有セサルヘカラス。

三、高級司令官カ毎日其命令ヲ以テ、戰鬥、行軍宿營等、意圖ノ如ク確實ニ之ヲ統率シ得サルヘカラス。

四、普通ノ道路ニ於テ、一縱隊ト爲リタル時ニ於テモ其行軍長徑ハ一日中ニ展開シ得ベキ程度ナラザルベカラス。

五、豫想スル作戰地境ニ適應セザルベカラス。

六、國軍全兵力ト對應シテ、軍司令官ヲシテ統帥セシムベキ、單位數ヲ適當ナラシメザルベカラス。

七、國軍歴史的關係ノ顧慮ニ適合セザルベカラス。

戰略單位ハ以上ノ諸要件ニ基キ、且實驗ヲ主トシテ制定セラレヘキモノニシテ、其結果戰鬥人員ヲ國々ニヨリ概テ一萬乃至四萬ヲ以テ、之カ決定ノ標準トナスモノトス。

而シテ、上記諸條件ハ之ヲ本邦ノ情況ニ適用シテ現在尙師團ヲ以テ、戰略單位ト制定セラレアル所以ニシテ、獨逸ヲ始メ歐洲諸列強カ軍團ヲ以テ戰略單位トナセルモノモ亦、此要旨ト同一理由ニ起因シ彼我情況ヲ異ニセルヨリ其兵力ノ多少ヲ見ルモノト知ルヲ要ス。

○統御。經理。衛生。

統御、經理、衛生ノ概念ハ〔字義〕ノ部ニ於テ知ルコトヲ得タリ。而シテ、明文ニハ「統御經理及衛生ノ關係ヲ律ス」ト示サレアリ。即

チ、戰鬪序列ニ依リ、其三者ノ(關縁連係)スル所ヲ劃定セラル、モ
 ノニシテ、之ニ於テ此ノ三者ハ各自相獨立セルモノニ非ルコトヲ知
 ラサルヘカラス。換言スレハ此三者カ如何ナル關聯ト連係トヲ以テ
 戰時ノ統帥系統ニ屬スヘキカヲ戰鬪序列ニ依リテ令セラルルモノト
 解スルヲ要ス。『野外要務令義解』ニ「此戰鬪序列ニ依リテ其編組内
 ニ在ル各部隊ノ戰役間ニ於ケル統御 行政(經理、衛生)權ノ行使及
 隸屬ノ關係確立スルモノトス」ト示シアルモノハ此謂ニ他ナラス。
 次ニ、更ニ明文ヲ咀嚼スルトキハ、茲ニ(一)統御 (二)經理 (三)衛生
 ナル三者ヲ特ニ掲ケアルコト是ナリ。

之カ理由トシテハ、戰時ニ於ケル軍隊萬般ノ業務ハ頗ル複雑多岐
 ヲ極ムト雖、之ヲ概括スレハ、則チ以上三機關ノ中ニ包含シ盡サル
 ルモノタルヲ以テ、戰鬪序列ニハ戰時軍隊業務ノ三大機關タル統御、
 經理、衛生ノ三個ヲ舉示セラルルモノト解スルヲ要ス。

〔備考〕 凡ソ軍隊ニハ平戰兩時ヲ問ハズ、其保存活動スルタメニ
 ハ必ス常ニ統御經理衛生ノ三機關ヲ具備スルヲ要シ、軍隊ハ此
 機關ニ依リテ運轉セラルルモノナリトス。換言スレハ「軍隊ニ
 具備スヘキ三要機關」トハ即チ經理、經理及衛生ノ三者ナリト
 ス。例ヘハ聯隊若クハ大隊ニ於テモ之カ隊長ハ統御ノ機關ニシ
 テ、主計ハ經理機關ニ位シ、軍醫ハ衛生機關ニ他ナラサルコト
 ヲ知ルヘク、即チ其一ヲ缺クモ該軍隊ノ保存活動完全ナル能ハ
 サルルカ如ク戰鬪序列ニ於テモ之ト同一理ニヨリ此三機關ノ一
 箇ヲ缺クモ其性能ヲ完備スルコト能ハサルモノトス。而シテ、隊

ト主計、軍醫カ各自全ク相獨立シテ其業務ヲ擔任スルモノニア
 ラスシテ、主計(經理)軍醫(衛生)共ニ隊長(統御)ノ統帥權ニ屬
 スル如クニ、戰鬪序列ニ於ゲルニ機關亦之ト同シク一統帥系統
 ニ屬シ彼此獨立存在セルモノニアラサルヲ知ルコトヲ得ヘシ。

全戰役間ノ統御

「全戰役間ノ統御」トハ、戰鬪序列ニ依リテ令セラレタル軍司令官
 (獨立師團長、獨立混成旅團長等)ハ、戰鬪序列ニヨリテ令セラレ之
 ニ屬スヘキ軍(獨立師團、獨立混成旅團等)ニ經理衛生機關ヲ含ム
 ニ對シ其戰役ノ終始ヲ通シテ統帥權ヲ有スヘキモノタルヲ謂フ。

全戰役間ノ經理及衛生

一戰役ノ終始ヲ通シテ其業務ヲ續行シ得ヘキ經理及衛生ノ機關ハ即

チ「兵站部」ニ他ナラス。而シテ此經理衛生ノ最要機關タル「兵站部」
 ハ平時ニ於テ常設セラレアルモノニ非ス。之ニ於テカ、戰鬪序列ニ
 依テ是カ編成ヲ制定セラレ、一方其ノ統御關係ノ令達ト共ニ茲ニ一
 作戰軍ノ編組確立スルモノナリトス。

○戰鬪序列カ動員ヲ行ヒタル時ニ令セララル、理由。明文ニハ「動員ヲ
 行ヒタル時」トアリ。其理由左ノ如シ。

凡ソ一國ノ作戰計畫ハ常ニ一定不變ノモノニ非ズシテ、政略上ノ趨
 勢ニ基ク、自國外交方針ノ遷移之ニ依リテ豫想セララルル對手國并其
 狀態殊ニ其有スル國軍ノ情況。之ニ基キ想定セララルヘキ作戰地ノ景
 況、自國軍ノ現況 國家經理トノ關係等ニ依リ、年々歳々之カ計畫
 ヲ修正改變セララルルコト恰モ動員計畫カ年度ニヨリテ逐次改正セラ

レアルカ如シ。之カ爲、其作戰計畫ニ基ク作戰目的モ亦隨時變化セラルヘキモノナルコト明ナリ、之ニ於テカ其目的ヲ達成スルニ適合スル如ク定メラルヘキ作戰軍ノ編組―戰鬪序列モ亦從テ平時ヨリ之ヲ確定成立セシメ置クコト能ハス。即チ動員ニ際シ、其時機ニ於ケル情況ヲ顧慮シ、達成ヲ要スル作戰某目的ニ基キ、之ニ適應スル如ク編組ヲ定ムルヲ本旨トス。是レ明文ニ「動員ヲ行ヒタル時、戰鬪序列ヲ令シ」ト示サレアル所以ナリ。

○戰鬪序列ハ勅命ニアラサレハ變更スルヲ得ス。抑、帝國陸軍ヲ平時ノ體勢ヲ戰時ノ體勢ニ移スカ如キ重大ナル「動員」又、作戰目的ニ適應スル如ク定メラルヘキ重要ナル「戰鬪序列」ノ如キハ、陸海軍ヲ親ラ統帥アラセラル、大元帥陛下親ラ令サセ給フ所ニシテ、明文ニ

「天皇ハ全軍或ハ一部ノ動員ヲ行ヒタル時、戰鬪序列ヲ令シ」トアルモノハ、即チ大元帥陛下親ラ動員ヲ令セラレ、而シテ戰鬪序列亦動員下令ニ際シ、同シク親ラ令セラレラル、コトヲ謂フモノナリト解スルヲ要ス。然ラハ既ニ勅命ヲ以テ令セラレタル戰鬪序列ノ成立ハ其ノ變更モ亦素ヨリ勅命ニアラサレハ苟クモ行フコトヲ得サルハ云ハスシテ明ナリ。

〔誤解〕

○全軍。或ル一軍ノ全部ト誤解スルモノアリ。獨、野外要務令ニハ野戰軍全部トアルモノトス。

○一部。或ル一軍ノ内ニ於ケル一部ト誤解スルモノアリ。
○戰鬪序列。

- 一、大本營カ之ヲ令達スルモノト誤ルモノ多シ。
 - 二、師團或ハ混成旅團等ノ戰略上ノ軍隊區分ト混視スルモノアリ。戰鬪序列ニ具備スヘキ要件ニ基キ、必ス全戰役間ノ統御經理及衛生ノ關係ヲ律セラレルモノ、即チ「兵站部」ヲ屬セラレサルトキハ戰鬪序列ハ成立スル能ハサルコトヲ知ルヘシ。
 - 三、各兵科ノ順序ト誤解スルモノ往々アリ。
 - 四、戰時編制ト混淆誤解スルモノ往々アリ。
- 各兵科ノ順序ハ其性能ニ依リ之ヲ配列シタル無形上ノ順序ニシテ、團隊ノ編組ヲ示スモノニアラス。
- 戰時編制ハ戰時諸般ノ場合ニ於テ之カ統率ニ適應シ其性能ヲ完全ニ發揚セシメ得ル如ク既ニ平時ヨリ制定セラレアルモノニシ

テ動員令ニ依リ平時ノ體勢ヨリ此戰時編制ニ移ルモノナリ。故ニ旅團若クハ師團ニアリテモ戰時編制ノミニテハ全戰役間獨立シテ作戰スルコト能ハサルモノトス。戰鬪序列トハ既述ノ如ク平時ヨリ何等示サル所ナク、動員當時ノ情況ニヨリテ作戰全般ノ目的ニ適合スル如ク作爲セラレ、勅令ニアリテ之ヲ令スルモノナリ。故ニ獨立師團、獨立混成旅團等ノ戰鬪序列ヲ令セラ

ルコトアリト雖、是レ決シテ平時既定ノ戰時編制ノ儘ニテ其任務ニ服スルモノニ非ス、之ニ特別ノ部隊及兵站部ヲ屬セラレ全戰役間ノ統御、經理及衛生ノ關係ヲ律セラレルモノトス。

- 統御經理及衛生。ヲ各獨立セルモノト爲スモノアリ。
- 全戰役間。ナル字句ニ牽制セラレ「戰鬪序列ハ戰役ヲ終始シテ固定

シアルモノト誤ルモノ往々アリ。戦闘序列ハ戰役間ニ於テ作戰目的ノ變化ニ依リ變更セラルルコト勿論アルモノナリ。

〔注意〕

- (一) 戦闘序列。ハ「編組」ナルコト。
- (二) 兵力ニ關係ナキコト。
- (三) 必ス勅令ヲ以テ令セラレ、又ハ變更セラルヘキコト。之カ爲、大本營ハ作戰業務ニ關シテハ勅命ヲ奉行スル國軍最高ノ機關ナリト雖、大本營ノ名ヲ以テスルモ戦闘序列ヲ令達シ、若クハ變更スルコト能ハサルモノナルコトヲ知ルヘシ。
- (四) 戦闘序列ニハ常ニ平時編制ヲ戰時編制ニ移シタル部隊ノ、ミヲ以テ編合スルモノニアラス。凡「戰時各部隊」ニハ平時某編組内ニ在リシモノト、新ニ編成セラレタルモノト在ルモノトス。
- (五) 兵站ハ平時ヨリ常設セラレアルモノニ非ス。

〔戰史〕

○獨立混成旅團ノ戦闘序列。

明治廿七八年戰役。戰役當初ニ於ケル大島混成旅團。ハ其一例ニシテ之ニ兵站部ヲ屬セラレタリ。

○獨立師團ノ戦闘序列。

明治三十七八年戰役。(一)樺太軍獨立第十三師團。(二)大孤山上陸軍。(一)師團ヨリ成ル(三)北韓軍(後備第二師團ヲ基幹トス)。

● 獨逸野外要務令對照義解

● 皇帝ハ野戰軍若クハ其一部ノ動員ト同時ニ戰鬪序列ヲ令シ、以テ、全戰役間ニ於ケル統御及行政ノ關係ヲ律ス。

此戰鬪序列ヲ勅命アルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス。

〔義解〕

以上ノ明文ハ吾野外要務令ト其意義全然相同シ。唯、『全軍』トアルカ「野戰軍」トアリ、『經理及衛生』トアルカ「行政」トアル文字上ノ差異アルノミ。

「野戰軍」トハ、守備軍ニ對スル名稱ニシテ、吾野外要務令ノ「全軍」トアルモノト之カ意義ニ牴觸スル所ナキモノトス。

獨逸ニ於テハ勅命ヲ以テスル動員令ニ依リ、戰時ノ姿勢ニ轉シタル國軍ヲ分チテ「野戰軍」及「守備軍」ト爲ス。

野戰軍ニ屬スヘキモノ次ノ如シ

各種ノ司令部

野戰經理各部

野戰隊

豫備隊

遊動後備隊

攻城隊

遊動兵站諸隊

遊動鐵道隊

獨逸野外要務令對照義解

守備軍ニ屬スヘキモノ次ノ如シ

留守司令部

經理各部

遊動性ナラサル後備隊

補充隊

國民兵諸隊

遊動性ナラサル兵站諸隊

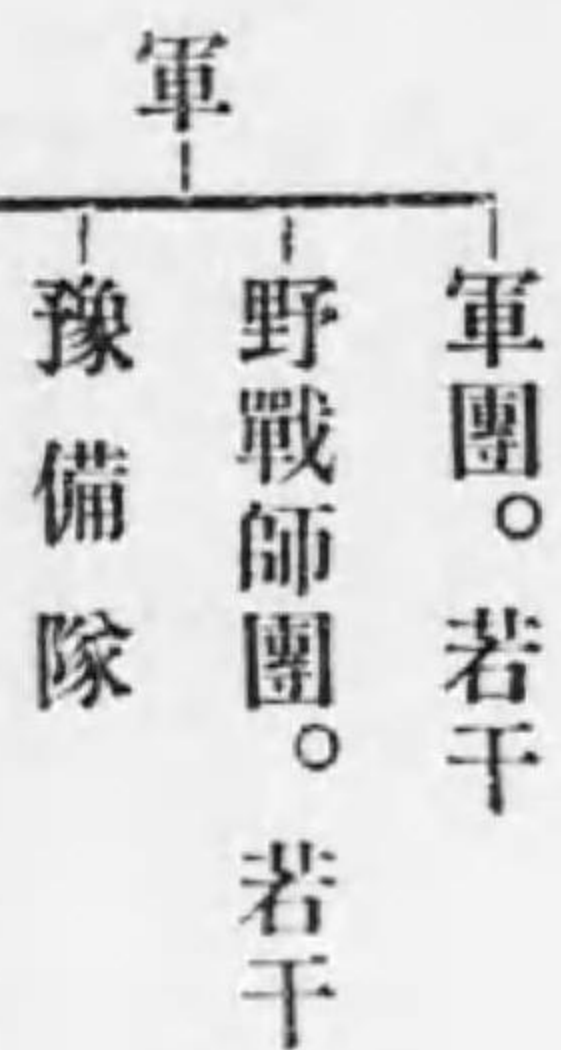
同 鐵道諸隊

(遊動性ナラサル諸隊トハ野戰ノ爲ニスル武裝ヲ修メス若クハ撤廢シタルモノヲ謂フ、其編組及出戰ノ武裝ヲ修ムルヲ特設部隊ノ編成ト謂フ、要塞、要地等ノ守備ニハ遊動性官衙及軍隊ヲ配屬スルコト

アリ)

「行政」トハ經理及衛生ノ兩者ヲ包含スル總稱ナリ、抑軍隊ハ統帥(軍令)行政(軍政)ニ權ノ行使ニ依リテ能ク其目的ヲ達成シ得ルモノニシテ更ニ「行政」ヲ解剖スル時ハ即「經理及衛生」ノ二者ニ區分スル事ヲ得ルモノトス、故ニ吾野外要務令ニ於テハ「行政」ニ代フルニ之ヲ分解シタル經理及衛生ノ二者ヲ以テシタルモノト見ルヲ得ヘク、之亦其意義ニ於テ日獨野外要務令間ニ何等ノ差異ヲ認ムヘキ者ナシ。

●野戰軍ハ數軍ヨリ成ル。



獨逸野外要務令對照義解

「特種部隊」

〔義解〕

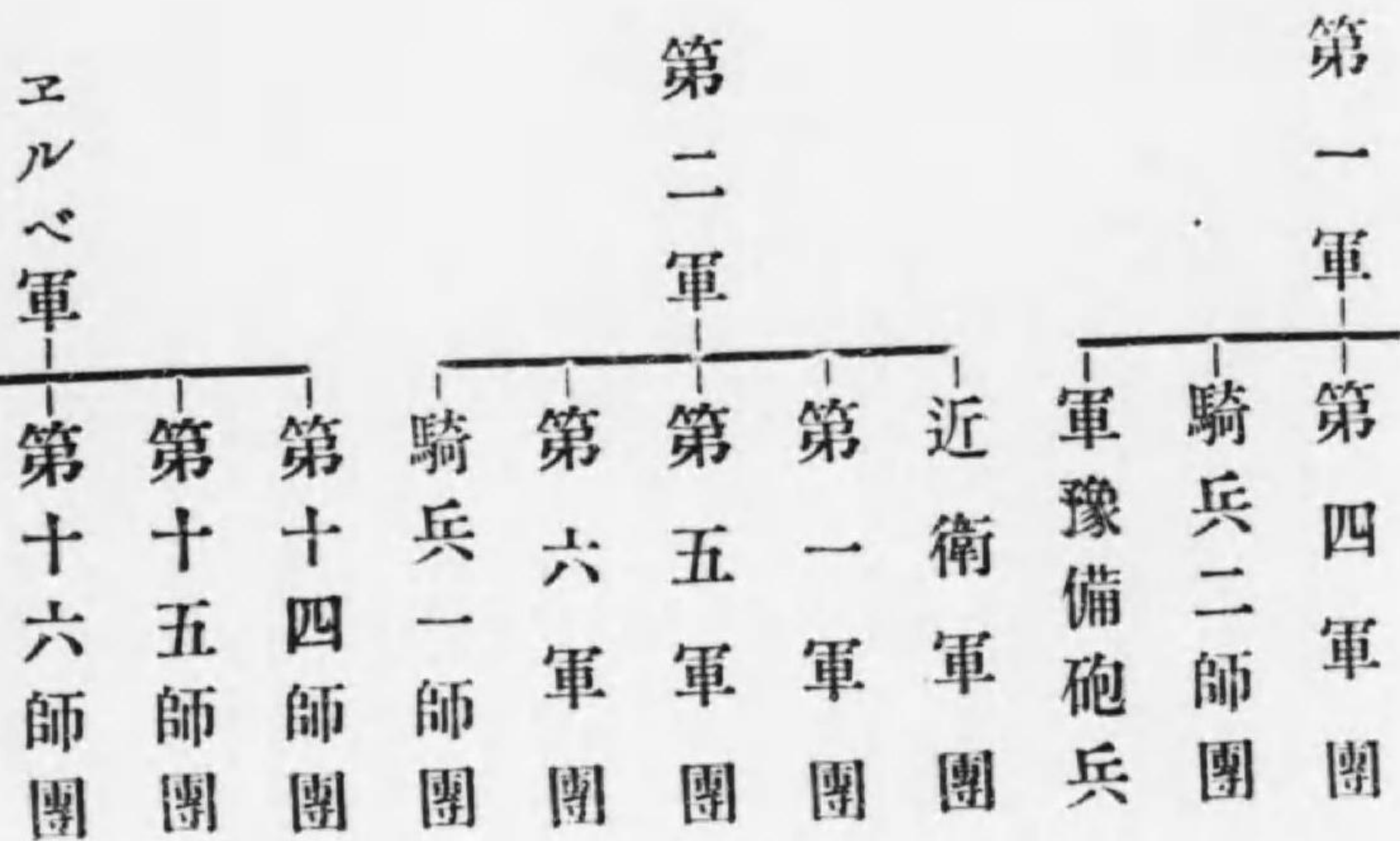
此「第四十」ニ掲ケタル「獨」野要務令ノモノハ吾國ニ於テ何等示サレアルモノナシ。

研究者ハ唯此項ニ於テ「軍」ナルモノノ概念ヲ明ニスルヲ得ヘシ。

今、獨逸カ其國過去ニ戰役ニ於テ取リタル「軍」戰鬪序列ノ概略ヲ掲ケ、研究者ノ參考ニ資セントス。

(一)一八六六年戰役(普墺戰役)ニ於テ普國、各軍ノ取リタル最初ノ戰鬪序列ノ概要ヲ示セハ次ノ如シ。

- 第二軍團
- 第三軍團



獨逸野外要務令對照義解

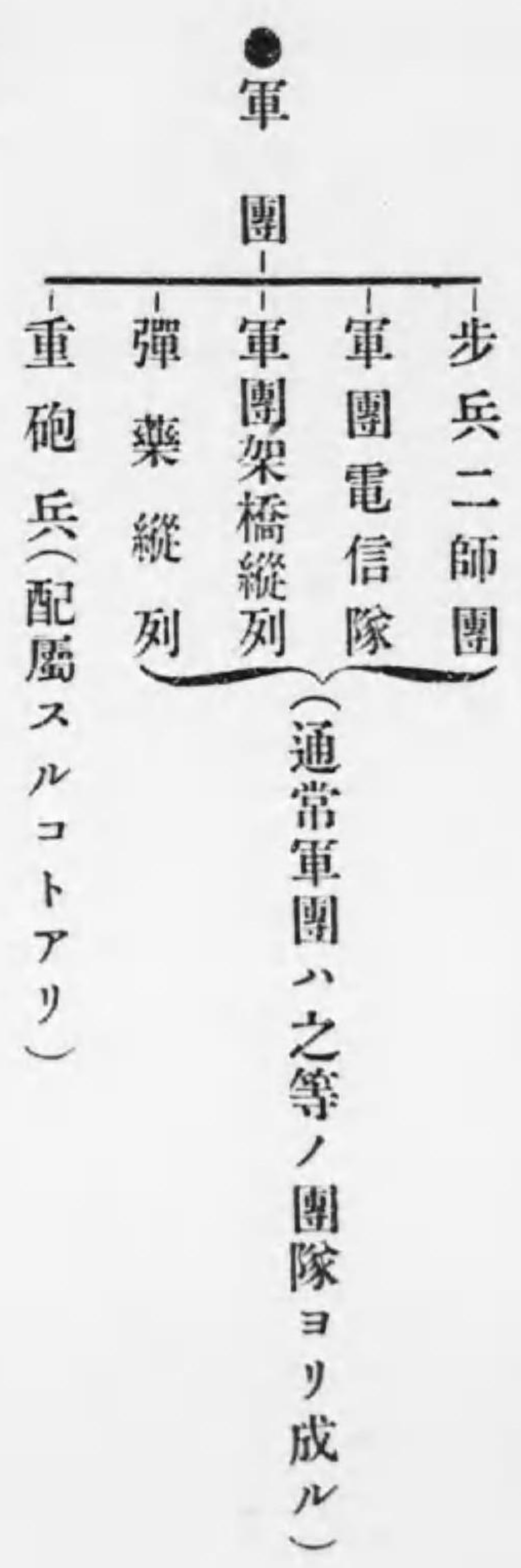
騎兵二旅團
軍豫備砲兵

(二)一八七〇一七一戰役(獨佛戰役)ニ於テ獨逸國ノ最初ニ取リタル戰鬪
序列ノ概要ハ左ノ如シ。

第七軍團
第八軍團
第一軍團
第一軍
騎兵第一師團
騎兵第三師團
第一野戰電信隊
第一野戰鐵道隊

近衛軍團
第三軍團
第四軍團
第九軍團
第十軍團
第十二軍團
第二軍
第二軍團
騎兵第五師團
騎兵第六師團
第二野戰電信隊
第四野戰鐵道隊

獨逸野外要務令對照表解



〔義解〕

右ノ明文モ亦我カ野外要務令ニ示サルル所ナシ。
 今、參考ノ爲、獨逸近衛軍團平時編制ノ概要ヲ舉ケ「軍團」ナルモノ
 ノ觀念ヲ獲得セントス。

師	○師團直屬部隊	備考
騎		
旅團	五	各軍團共獵兵
	六、六〇〇	

近										衛														
團師					團					二					一									
兵					騎					野戰					砲					兵				
聯隊	大隊	中隊	機銃隊	旅團	聯隊	中隊	旅團	聯隊	大隊	中隊	野戰榴彈砲中隊	騎砲兵隊	中隊	聯隊	大隊	中隊	野戰榴彈砲中隊	騎砲兵隊	中隊					
一	一	二	二	四	四	八	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二				
戰	時	人	員	概	數	(個	一	各)	戰	時	人	員	概	數	(個	一	各)	戰	時	人	員			
三、三〇〇	一、一〇〇	二七〇	一三〇	一、五〇〇	七三〇	一八〇	一、九〇〇	九三〇	四八〇	一五〇	一七〇	一七〇	一、九〇〇	九三〇	四八〇	一五〇	一七〇	一七〇	一、一〇〇	二七〇	一三〇			
大隊一、若クハ二ヲ有ス					他軍團ハ騎兵旅團二、第一第十四軍團ノミ三ヲ有ス					他軍團概子上記編成ト同シ														

獨逸野外要務令對照義解

軍 團											○軍團直屬部隊	備考	
徒歩砲兵			工兵			交通隊			兵				
聯隊	大隊	中隊	大隊	中隊	大隊	旅團	聯隊	大隊	中隊	大隊	中隊	大隊	
一	二	八	一	四	二	一	三	六	二	一	三	一	
戰時人員概數(各一)													
一、五〇〇	五七〇	二七〇	一、四〇〇	二七〇	六〇〇	一六〇	六〇〇	一九〇	六〇〇	一六〇	六〇〇	一九〇	
第十乃至第十三軍團第十九軍團ハ之ヲ有セス			他軍團概テ上記ト同編成ノモノヲ有ス			巴威第一軍團ニ大隊二(三)中隊編成)ヲ有スル他軍團ニハ之ヲ有セス			第八、第十四軍團ハ上記同編成ノモノ及巴威第一軍團ハ二中隊ヲ有ス。他軍團ハ之ヲ有セス			巴威第一軍團ニ一大隊ヲ有ス	

輜重兵	大隊	一個	他軍團惡ク上記同編成ノモノヲ有ス
中隊	三	?	

○軍團、戰時編制ノ概要

一、步兵二師團

其各師團ハ通常步兵二旅團(各三大隊ノ二聯隊)、

騎兵半聯隊(三中隊)、

野戰砲兵一旅團(二聯隊ヨリ成リ、各聯隊ハ各繫駕砲兵三中隊

ノ二大隊(其ノ中ノ一附隊ニハ輕野戰榴彈砲)

野戰工兵一若クハ二中隊(即チ軍團ニハ三箇ヲ有ス)、

師團架橋縱列一

衛生中隊一乃至二

獨逸野外要務令對照義解

軍團ニ屬スル獵兵大隊並機關銃隊ヲ某步兵旅團ニ配屬ス。

軍團ニ二箇獵兵大隊アル時ハ各步兵師團ニ各一個ヲ屬シ之ヲ各師團内ノ某旅團ニ配屬セシム

二、工兵一大隊(三中队ヨリ成リ其ノ内)一若ハ二中队ヲ兩步兵師團ニ屬ス。

三、軍團電信隊

四、軍團架橋縱列

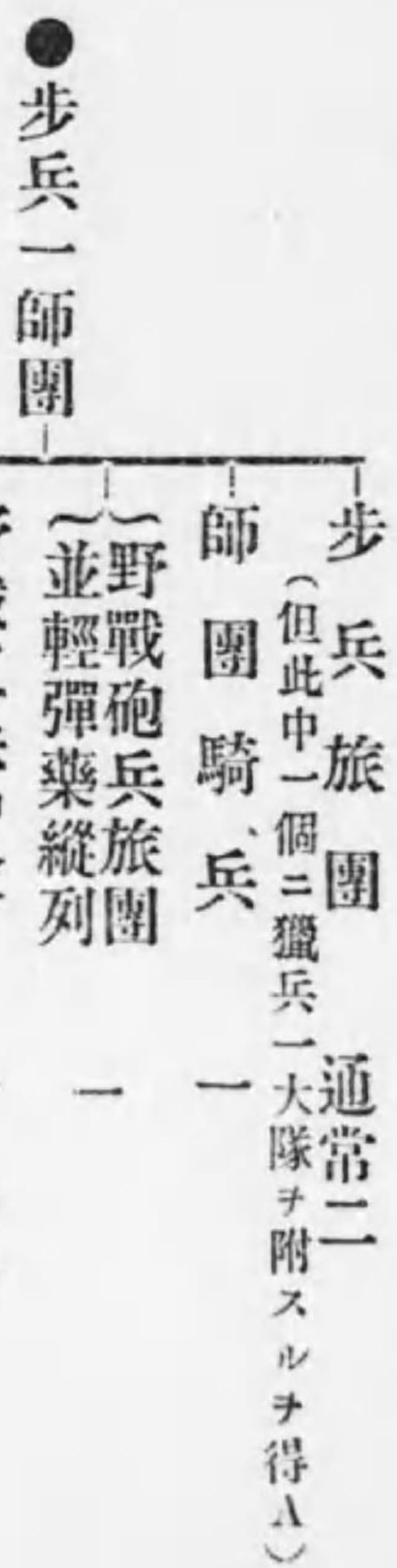
五、彈藥縱列。二大隊ニ編成シ其一大隊ニ步兵二個砲兵四個ノ彈藥縱列ヨリ成リ軍團彈藥縱列指揮官ニ屬ス。

六、輜重(給養)大隊二、各一個ハ三糧食縱列三乃至四ノ補助糧食縱列及一箇ノ馬廠ヨリ成ル。

七、野戰麵麩縱列二

八、衛生大隊(三中队ヨリ成リ、常ニ師團ニ分屬ス)及野戰病院十二

九、軍團ニハ殆ト常ニ野戰砲兵大隊一箇若ハ數個ヲ屬ス。



A、Bノ爲ノ諸規定ハ獵兵及步兵ト同一ノ勤務ニ服スル工兵ニモ通用ス。

〔義解〕

歩兵師團ヲシテ長時間獨立ノ行動ヲ取ラシメンカ爲、之ヲ分遣シ、若クハ一地ニ配置スヘキトキハ其有スル特別ノ目的ニ依リテ騎兵並縱列及輜重ヲ増加スヘキ程度ヲ定ムルヲ要スルモノトス。

師團ヲシテ野戰役間獨立シテ作戰セシメントスル時ハ、大略軍團ノ半數ニ相當スル縱列及輜重ヲ附スルヲ要スヘク、又騎兵ヲ増加スヘキ必要アルヤ否ヤハ、特別ノ目的ノ他、本軍トノ距離及地形等ニ依リテ決定セラルヘキモノトス。

騎兵旅團 通常三

騎砲兵大隊 一

(輕彈藥縱列ヲ附ス)

●騎兵師團 工兵部隊 一

機關銃隊 一

〔義解〕

騎兵師團ノ編制ニ在リテハ密集隊形ヲ以テスル戰鬪動作、及戰略偵察ノ任務ヲ研究シ、且之ニ獨立動作シ得ル爲、砲兵ヲ配屬シ、又特別破壞作業ニ從事スヘキ工兵ヲモ配屬スルヲ要スルモノトス。

是ノ兵力及編組ハ戰鬪及偵察ノ爲、騎兵師團ノ有スル、之カ兩種ノ任務ヲ達成スルニ適合スルモノナリトス。

騎兵師團ニ機關銃隊ヲ配屬スルハ誠ニ必要ナルモノニシテ、機關銃隊ハ騎砲兵ト等シク繫駕ニ適スル諸設備ヲ有スル爲、常ニ騎兵ヲシテ徒歩戰ノ勞ヲ省クコトヲ得セシムルモノトス。

●豫備師團。概シテ歩兵師團ノモノニ同シ、但シ此師團ニ通常別ニ豫

備電信隊一ヲ屬ス。

〔義解〕

任務重大ナラサルモノ、例ヘハ占領地ヲ通スル後方連絡線ヲ警戒スヘキ豫備師團ノ如キハ、概テ砲兵ヲ省キ得ルモノトス。蓋シ斯クノ如キ場合ハ通常歩兵、及騎兵ノ主力ヲ分割セル守備勤務部隊若クハ小部隊ヲ以テスル、國內或ハ占領地内ノ警備ニ他ナラサルヲ以テ、砲兵ヲ要スルコト少キカ或ハ皆無ナルモ支障ナキモノニシテ又同シク輜重及縦列ノ如キモ其ノ多キヲ要セサルモノトス。是レ直接ニ兵站勤務ニ關與セルヲ以テ、是等ノ需用ヲ容易ニ調辨シ得ヘキヲ以テナリトス。

故ニ要塞ヲ合圍スル豫備師團ヲシテ、其目的ニ適合セシメンカ爲ニハ、戦闘序列ニ於テ定數以上ノ騎兵及砲兵ヲ増加スルヲ要ス。但任務上其位置ヲ移動スルコト少カルヘキヲ以テ、之カ輜重ノ大部ヲ減スルコトヲ得ヘシ。唯彈藥縦列及衛生中隊並病院ヲ開設スルニ足ルヘキ人員及材料ヲ必要トス。

〔備考〕 以上獨逸野外要務令第四十乃至第四十四ハ吾野外要務令ニ就テ何等認ムル所ナキモノトス。之ニ於テ兩者野外要務令ヲ對照セラレタル東條中將閣下ノ說ニ曰ク、(我が野外要務令の「戦闘序列」なる表題下に師團の編合が擧げてないのを見るを我が軍制の精神は師團の編合戦闘序列なる意味が無いものであらう、随つて動員に當り野外要務令第一條に據り師團の戦闘序列としては至高の命令を發せられぬ精神であらう、然るに平時の師團の編合は上にも謂ふ如く動員と共に消滅すべき道理のもの

とすれば戦時に於ける師團の命令、經理の關係は何で律するの
であらうか、或は戦闘序列的な特別の命でも發せらるゝのであ
らうか、著者は暫らく茲に疑を存して止むより外はない。ト。
吾人ハ解釋ハ之ニ反ス。

吾ガ野外要務令ニハ閣下ノ言ノ如ク單ニ師團ノ編成ノミヲ示サ
レサルノミナラス軍ノ編成ニ於テモ亦示サル所ナシ。故ニ閣
下ノ說ニ從ヒ師團の編成が擧げてないのを見ると我が軍制の精
神は師團の編成に戦闘序列なる意味がないものであらう、トス
ル時ハ、軍ノ所謂編合ヲ擧示セサル吾軍制ノ精神ハ軍ノ編合ニ
モ戦闘序列ナル意味ヲ有セザルニ至ラントスルノ結論ヲ生スヘ
ク、斯クノ如クスルトキハ全ク戦闘序列ノ明文ハ何等意味ヲナ

ササルニ至ルヘキナリ。吾人ノ解スル所ニ依レハ全ク然ラス、
吾野外要務令ハ其部隊ノ兵力ニ關シテハ更ニ之ヲ示スコトナ
シ。以テ軍、獨立師團、獨立混成旅團等作戰ノ目的ニ適應スル
如ク意ニ隨ツテ之ヲ編組セシメ得ヘク而シテ之カ成立ハ即チ戰
闘序列ニヨリテ律セラルルモノト解釋シテ何等明文ト紙觸スル
所ヲ見サルノミナラス、寧ロ閣下カ「其編合ヲ示サルルカ故ニ
部隊ニ戦闘序列ナル意味無キモノナラン」ナル論旨ノ何ノ準據
ニ依リテ然ルカヲ知ルニ苦ムモノナリ。又平時ノ編合ハ動員ト
共ニ消滅スヘキハ閣下ノ說ノ如シト雖、素ト軍ニ編合セラレル
ヘキ師團ハ元來其戦時編制ヲ以テ「軍ノ戦闘序列」中ニ入ルヘキ
モノニシテ、其儘軍ノ戦闘序列ニ包含セララルルモノトセハ何等

故障アルコトナシ。閣下カ疑トセラル、戦時ノ命令經理ノ關係ヲ之ト同時ニ令セラレ茲ニ同時ニ確立スルモノニシテ、又獨立師團ノ成立ヲ要スルトキハ更ニ別ニ之カ「師團ノ戦闘序列」ヲ以テ律セラルルモノナリトス。

吾人カ獨逸野外要務令ノ解釋ハ閣下ノモノト稍其趣ヲ異ニスルモノニシテ、該令カ軍、師團等ノ編組ニ關シ之ヲ掲ケアルモノハ其一般ノ準據ヲ概示シタルモノニシテ、閣下ノ解セラルル如ク此明文有ルカ故ニ獨逸ニテ師團ノ戦闘序列ヲ命スルヲ得ヘク、之無キカ故ニ吾國ニハ師團ノ戦闘序列無シト直解スヘキ性質ノモノニアラス。若シ閣下ノ解ニヨル時ハ前述ノ如ク吾國野外要務令ニ軍ノ編合ヲ示スナク、獨逸ノモノニ獨立混成旅團ノ

編合ヲ掲ケアラス即チ吾ニ軍ノ戦闘序列ナク彼ニ獨立混成旅團ノ成立ヲ見ルヲ能ハサルニ至ルヘシ。獨逸ニ旅團ノモノヲ示ササルハ之カ成立カ稀有ナル爲ニシテ、之カ成立ヲ無シトセシ精神ニアラスト信ス、又若シ獨逸ニ於テハ師團ノ編合ヲ示シアルカ故ニ師團ノ命令及經理ノ關係ハ戦闘序列ニアリテ示サルモノトセハ。

一、全師團ニ各悉ク戦闘序列ヲ命令スヘキモノナルヤ
 二、一步ヲ進メテ師團以下命令ノ關係ハ何ニアリテ定ムルヤハ猶閣下カ所謂「戦闘序列」的ナル、特別ナル命令ヲ發セラルルカ、ノ疑問ヲ生セサルヲ得ス。

故ニ吾人ハ、獨逸ハ軍、師團編組一般ノ準據ヲ概示シタルモノ

ニシテ、吾國ニ於テハ何等之ニ關スル準據ヲ示サルルナク兵力ノ如何ニ關セス之ヲ令シ得ルモノナリト自由ニ解釋スルモノナリ。

○戰鬪序列ニ關スル獨逸ノ學說

(戰鬪序列ノ性質)

戰鬪序列ハ野戰軍ノ編組ヲ表示スルモノナリ。

(意義)。元來戰鬪序列ナル語ハ戰鬪順次ナル意義ヨリ出テタルモノナリト雖、今ヤ主トシテ軍隊一般ノ區分ヲ示スニ至リ之ニ依リテ統御及行政ノ關係ヲ規制ス。而シテ尙之ガ幾分カ正規ナル戰鬪方式ナル意義ヲ保有ス。

(平時團隊配置並編制ト戰鬪序列トノ關係)

最良ノ平時區分ハ現在ノ軍隊ヲ直ニ戰鬪序列ニ轉移シ得ルモノナルヲ要ス。唯此理想ハ平時ノ狀態如何ニ依リ實施上種々ノ支障アルヲ免レズ。之等ノ原因ヨリ平時區分ヲシテ、戰時ノ爲ノ戰鬪序列ト幾何ノ程度ニ至ル迄之ヲ懸隔セシムルモ不可ナキカハ、將來益々慎重ナル考究ヲ要ス。蓋シ自今軍隊ヲ衛成地ヨリ大兵團ニ集中シ、爾後直ニ戰場ニ進出セシメントスルノ速度愈々増進スヘキヲ以テナリトス。之カ爲、戰鬪序列ニ轉スルノ容易ナラシムヘキ處置ハ毫モ之ヲ等閑ニ附スヘカラサルモノトス。

(戰鬪序列決定ノ基準)

一大國軍ハ戰鬪序列ヲ以テ之ヲ數部ニ區分セララルヘク通常之ヲ「軍」ト稱ス。

「軍」ノ兵力及編組ハ豫メ之ヲ一定スルコト能ハス。是レ戦争ハ其ノ因テ起ル所ノ形勢常ニ一様ナルコト無ク、又敵軍ニ就テハ素ヨリ論ナシ、既ニ同盟軍ノ編制及中立國ノ状態ニモ關係スヘケレハナリトス。

「軍第一著ノ區分」ハ徒ニ多數ノ中間部ヲ生セサル爲、勉メテ多數ノ區分ヲ生スルノ主義ヲ取ルヘシ。然リト雖、區分數多キニ過クル時ハ一指揮ノ統率不便ナルヘシ、然ラハ最モ適當ナル數ハ如何？之ヲ學說上直ニ算出スルハ不可能ナルモノニシテ、經驗ニ依リテノミ多少ノ準據ヲ得ルモノトス即チ「軍ノ區分」カ八個（例ヘハ六軍團及騎兵二師團以上）ナルトキハ、嚴確且齊一ナル統帥ノ爲大ナル困難ヲ來スヘシト斷言スルヲ得ベシ。

今主トトシテ三兵種即チ步兵、騎兵、及砲兵ニ著眼シ該兵種ノ戰術

單位即チ步兵ハ大隊、騎兵砲兵ハ中隊若干ヲ綜合シテ「軍」ヲ形成スルモノトセハ「軍ノ第一區分」ノ爲ニ、步兵ヲ根本トシテ之ヲ均一ニ區分シ、其各集團ニ相當スヘキ比例ノ騎兵及砲兵ヲ配屬スヘキヤ、或ハ特ニ騎兵及砲兵ヨリ成ル軍ノ一部ヲ編成スヘキハ研究ヲ要ス。

（戰鬪序列決定ト騎兵）

一八七〇—七一年戰役ニ於テ獨逸騎兵ハ殊ニ遠大ナル地域ノ搜索ニ任シ、且我軍ノ運動ヲ掩蔽スルノ特性ヲ發揮シテ大ニ其効用ヲ規シ、之ヲ以テ騎兵ノ面目ヲ改ムルコト多ク、恰モ再生ノ運命ヲ得シメタルモノナリ（記者）。一八六六年普墺戦争ニ於ケル普國騎兵ハ常ニ軍戰鬪部隊ノ後方ニ位置シ、決戰時機ニ於テ白兵戰ヲ以テ戰鬪重點ニ於ケル勝敗ノ決スルノ用ニ資セラレ、搜索、掩蔽追擊等ニ其性能ヲ發揮スル

コト無シ、獨軍ハ此實驗ニ鑑ミ、一八七〇—七一年獨佛戰爭ニ於テ騎兵ヲ前方ニ派遣シ搜索、掩蔽ニ任セシメ、未タ充分ナリト謂ヒ難キモ、騎兵ノ特性ヲ始メテ活用スルヲ得タリ。斯ルカ故ニ「軍ノ第一區分」ニハ騎砲兵ヲ配屬セル獨立騎兵團ヲ包含セサルヘカラサルコト明白トナルニ至リ學理上亦何等ノ説明ヲモ要セサルニ至レリ。即チ今後ノ問題ハ是等騎兵團ノ兵力及編組ヲ如何ニスヘキヤニ他ナラス。

普軍ハ一八六六年戰役ニ於テ二師團ヨリ成レル騎兵軍團ヲ有セシト雖、概チ一軍司令部ニ屬セシメ、唯時トシテ最高指揮官ノ命令ヲ受ケシメタリ、之カ實驗ニ徵スルニ此方法ハ不利ナリシト雖、其原因ハ騎兵軍團ニ歸スヘキヨリモ寧ロ戰略及戰術上應用ノ適當ナラサリシニ歸スヘキナリ。

一八七〇—七一年戰役ニ於テハ、騎兵軍團ノ編組ヲ廢シ、數多ノ獨立騎兵師團ヲ編成シ、之ヲシテ軍司令部ニ直屬セシメタリ。此制度ハ當時ノ佛國騎兵ニ對シテ一般ニ好結果ヲ奏セリ、然リト雖、當時猶更ニ一層大ナル騎兵團ヲ統一的ニ集結シテ使用ジタリトセハ其効果モ亦更ニ多大ナリシナラン。

軍ノ正面前ニ位置スル大騎兵團ヲ戰略的偵察ノ爲、各別ノ任務ヲ以テ諸方向ニ對シ、廣大ナル正面ニ前進セシムルヲ要スル時ハ、騎兵師團ヲ各組ニ獨立使用スルヲ有利ナリトス。

右ノ如キ場合ニ於テ、更ニ高級ナル騎兵指揮官ノ隸下ニ之ヲ集結スルハ、僅ニ無益ノ中間司令部ヲ設クルニ過キスシテ寧ロ宜シク軍司令部自ラ之ヲ指揮スヘキモノトス。之ニ反シ若シ數多ノ大騎兵團ヲ同一

方向ニ於テ同一目的ノ爲ニ使用スル時ニ於テハ、之ヲ共同指揮官ノ隷下ニ屬シ、決勝點ニ優勢ナル兵力ヲ舉用シ敵ノ騎兵ヲ驅逐シ敵ノ情況ヲ候察スルヲ有利ナリトス。

會戰ニ於ケル決勝及敗敵ノ進撃ニハ勉メテ大ナル騎兵團ノ統一の集結ヲ要スルモノニシテ、之ニ由リ廣大ナル正面ニ亘リ同時ニ強大ナル縦長區分ヲ保有シ、雷ニ敵ノ一切ヲ蹂躪スルノミナラス、更ニ敵中ニ進入シ、其際若シ敵騎兵ノ攻撃ヲ受クル時ハ之ヲ拒止シ得サルヘカラス。若シ騎兵團カ敵ノ後方連絡線ヲ遮斷シ若ハ敗敵ノ前面ニ迂回スルコトヲ得ハ敵ヲ全滅スルニ足ルヘシ。獨國騎兵ハ此點ニ關シテ一八七〇—七一年ニ屢々大成功ヲ得ヘキ好機會ヲ逸セリ。

斯クノ如キ大騎兵團ヲシテ始終一條ノ道路ヲ行進セシメ、甚シキハ統一シテ舍營セシメントスルカ如キハ、決シテ之ヲ爲スヘカラサルコト勿論ニシテ、單ニ最高級指揮官ノ決定スル地點ニ於テ決勝ヲ求メンカ爲ニ、其偵察ニ於ケルト、會戰ニ於ケルト、敵ノ背後ニ動作スルトニ論ナク分離シテ行進スル數多ノ騎兵師團ヲ一時高級指揮官ノ隷下ニ集結セントスルノ心算ヲ實施スルニ過キササルヘシ、而シテ共同任務既ニ解結スル時ハ各騎兵師團ヲシテ、再ヒ獨立シテ種々ノ目標ニ向ヒ前進セシムルヲ得ヘシ。

以上ノ理由ニ困リ最初ヨリ騎兵軍團ヲ編組スルコトナク單ニ高等指揮官ノ司令部ヲ各軍ニ配屬スルヲ適當トスルナラン。

●軍ノ戰鬪序列ハ軍團單位トナスヘキカ、師團單位トナスヘキヤ。

(一)統率ノ難易ヨリ生スル決定

「軍」定規ノ第一區分ハ軍團。即チ三萬五千乃至四萬人ノ一兵團（輜重全部ヲ包含ス）トナスヘキカ又ハ師團即チ軍團ノ約二分ノ一ニ當ル一兵團ヲ可トスヘヤニ就テハ諸説未タ一定セス。

現今ノ問題タル國軍區分法ニ關シ既往ト現在ノ形勢ヲ比較スルニ、其變化ヲ認ムルニ一般兵役實施後陸軍ノ兵數ニ増加セルノ一事アルノミトス。之ヲ以テ軍ノ第一區分ノ兵力ヲ減少スヘキ理由トナスニ足ラス。今若シ七分乃至八萬ノ兵力ヲ有スル一軍アリト假定スル時ハ之ヲ二軍團及騎兵一師團ニ區分スルヨリモ、歩兵四師團及騎兵一師團ニ區分スルヲ有利トスルカ如シ。是レ蓋シ軍團編成トナス時ハ更ニ之ヲ歩兵師團ニ區分スルヲ要シ、軍團司令部ハ畢竟無益ニシテ累ヲ爲スニ過キサル司令系中ノ一節ナルノ觀アレハナリトス。然リト雖、平時二十

二軍團ヲ有シ戰時之ヲ五乃至六軍ニ編合スヘキ獨逸國軍ニ在リテハ、各軍ハ約四軍團及一乃至二個ノ騎兵師團ニ區分セラルルヲ可トス。若シ然ラスシテ之ヲ歩兵師團ニ區分スル時ハ、軍ノ直接部隊ハ約十箇ヲ算スヘク、從テ其統帥ノ支障ヲ來スヘク、又一軍日々ノ運動ヲ規畫スルニ當リ、第一ノ困難ハ軍隊其ノモノノ行動シ得スシテ、通常行李、縦列、及輜重ノ名稱下ニ概括スルモノニアルコト經驗上明白ナルモノトス。軍司令部ニ於テ毎日約八組ノ歩兵師團及一乃至二ノ騎兵師團ノ爲必要ナル命令ヲ發スルノ他、戰鬥部隊ノ行軍縦列ニ續行スル彈藥縦列及輜重ノ指揮ニ關シ複雑ナル規定ヲ爲スノ場合多キ時ハ是レ過重ノ任務ヲ負擔スルモノニシテ、之カ處理ニ堪ヘサルヘキナリ。
之ニ於テカ分業ノ原則ヲ必要トス。

(二) 行軍長徑ヨリスル結論

凡ソ行軍ハ戰時事業ノ大部分ヲ占メ殆ト毎日實施スヘキモノナルカ故ニ行軍ニ關シテモ軍團ヲ以テ軍ノ第一區分トスルコト愈適切ナルヲ見ルヘシ。蓋シ軍團ハ其序列及輜重ノ缺クヘカラサル部分ヲ合スル時ハ約三十吉米突ノ行軍長徑ヲ有シ、一條ノ道路(大軍ノ運動ニ在テハ一軍團一條ノ道路ヲ得ルハ寧ロ通常トス)ヲ行進スルトキハ、悠ニ一日行程ニ達スルヲ以テナリトス。而シテ一道上ニ於テスル行軍ヲ區處スル爲ノ命令ハ、其軍隊ノ全部ヲ永續シテ統括スル一司令部ヨリ發スルヲ最良トスヘキハ勿論ナリトス。

故ニ大軍ニ在リテハ日々ノ行軍ニ關シ重要ニシテ適切ナル規畫ヲ爲サシムルカ爲ニモ軍團編制ノ必要ナルヲ知ルヘシ。

(三) 行李、輜重等ノ設備ヨリスル決定

國軍内部ニ於ケル特別ノ需要ニ關スル經驗モ亦之ヲ顧慮セサルヘカラス。即チ輜重ヲ成ルヘク輕減シ、彈藥、糧食、被服、及衛生機關モ成シ得ル限り僅少ナラシムルヲ努メサルヘカラス。然ル時ハ戰時ニ於ケル軍團ノ編合ヲ成ルヘク大ナラシムルヲ有利トス。蓋シ是等ノ設備ハ其兵團小ナル時ト雖、各種ノ需要ニ應セントセハ大兵團ニ於ケルト略ホ同様ノ設備ヲ爲ササルヘカラス。然ルニ兵團大ナルトキハ其要求モ漸次平均ヲ見ルヘキヲ以テ、大ニ其設備ヲ節約シ得ヘク、故ニ此點ヨリ考究スルモ、軍ノ第一區分ヲ軍團トスルコト、其半ニ過キサル歩兵師團ヨリモ有利ナルカ如シ。然リト雖、若シ師團ヲ以テ軍ノ最大單位トナス時ハ、之ニ縦列及輜重ヲ全備セサルヘカラサルヤ多言ヲ須タ

サルヘシ。而シテ軍カ僅ニ三乃至四個ノ步兵師團ヨリ成ルカ如キ例外ノ場合ヲ除クノ他ハ、軍司令部カ是等ノ諸屬部ヲ統轄シテ機ヲ失セス各步兵師團ノ需要ニ應スルコト能ハサルヘシ。凡ソ軍團ノ編制ヲ行フニハ決シテ此ノ如キ例外ノ事實ヲ標準トスヘキニアラス。

(四) 戰鬪統率上ヨリスル結論

今若シ戰鬪否會戰ノミニ著眼スレハ、步兵師團ノ指揮ハ支障ナク實施セラルヘシト雖、尙往々數多ノ步兵師團ヲ包括スル司令部ヲ切望スヘキ場合ナキニアラサルヘシ。步兵二箇師團ヲ左右ニ并列シ最大ナル戰役ヲ成形セル場合ニ於テ、之ヲシテ負擔セシムヘキ任務ヲ極メテ適切ニ分界セルニ關セス遂行ノ難易ニ著大ナル差異ヲ生シ、甚シキハ一、ト二、トノ比例ニ及フコト亦稀ナラサルヘシ。例ヘハ一方ノ各兵師團

ハ其步兵ノ三分ノ二ニ所屬砲兵ノ一部ヲ加ヘ之ヲ以テ容易ニ任務ヲ遂行シ得ヘキニ反シ、他ノ師團ハ增加砲兵ノ準備的援助ヲ要スルノ他、尙步兵ノ特別豫備隊ヲ要シ然モ之ニ用ユヘキ兵力ノ不足ヲ生スルコトアリ。此際任務ノ遂行容易ナル步兵師團ヲ之ニ應援スルコトヲ得ヘシト雖、自己ノ成功全ク確實ナラサルニ自ラ進ミテ欣然其舉ニ出ツヘキヤ否ヤハ疑ナシトセス。斯クノ如キ場合ニ於テハ肝要ノ權限ヲ有スル一司令官アリテ一方ノ步兵師團ヨリ其一部ヲ分割シ兩步兵師團ノ豫備隊トシ、之ニ依リテ戰況ヲ進捗セシムヘキヲ要スルヤ必セリ。然ル時ハ一層高級ノ將校即チ軍團長ヲシテ此權限ヲ有セシムルヲ可トス。或ハ古參師團長ヲシテ其任ニ當ラシムヘシトノ說ナキニ非ス、但古參師團長ト雖自己固有ノ職務ヲ抛擲スルコト能ハサルヘキヲ以テ、此說ハ

適當ナル能ハス。又一軍カ強大（成シ得ル限り）ナル數縱隊ニ分レテ行軍シ、此各縱隊カ單獨ニ敵ト交戦スル時ハ、軍團長ヲシテ整一ニ指導セシムルコト必要ナリ。是レ軍司令官ハ數多縱隊ノ一ニ位置スルヲ以テ直接指揮ヲ得ルハ只該縱隊ノミニ止レハナリトス。然ルニ他點ニ於ケル統帥ヲ前方師團長ニ一任セントスルハ戰勝ヲ僥倖セントスル輕舉ニアラスシテ何ソヤ。殊ニ師團長ノ幕僚ハ一個師團ノ指揮ニ任スルニ足ルヲ度トシテ組織シ有ルニ於テヲヤ。又、凡ソ常設ノ司令部ヲ或場合ニ特設セラルルモノヨリモ多大ナル能力ヲ備フヘキモノナルコトモ考慮スヘキナリ。是ノ如ク一軍戰鬪序列ノ基礎ハ實ニ軍團ナラサルヘカラス。獨逸國軍ニ在リテハ平時軍團ノ編制ヲ適當トスルノミナラス、尙既設ノ如キ騎兵師團ノ編成ヲ要スヘシ。

以上ハプロサント、フオン、シエルレンドルフ步兵大將ノ意見ヲ紹介シタルモノニシテ、以テ獨逸陸軍カ「戰鬪序列」ニ對スル意向ヲ察知スルコトヲ得ヘシ。今此說ヲ吾國現在國軍ノ情態ニ對照スルニ

- 一、戰時作成スヘキ「軍」ノ個數ニ彼我著シキ差異ナカルヘキコト。
- 二、平時彼ハ二十三軍團ヲ有シ、我ハ十九師團ヲ有スルコト、即全兵力ニ大差アルコトヲ知ルヘシ。
- 三、彼軍團ノ行軍長徑ハ約三十米（一日行程）ナリト雖、我師團ノ行軍長徑ハ豫想スル作戰地ニアリテ約四十吉米ニ亘ルコト。
- 四、糧秣品種ノ差異ヨリ行李輜重等ハ同人員ノ給養ニ對シ彼ニ輕キヲ得、我ニ重カラサルヲ得サルコト。
- 五、作戰地ノ地形ニ差異アルコト。

等ニヨリ、吾國ニ於テハ依然「師團」ヲ以テ戰略單位トナシ、軍ノ戰鬥
序列モ亦師團單位ヲ適切トスルモノトス。

大正二年四月十二日印刷
大正二年四月十五日發行

正價金拾五錢

不許
複製

編纂者兼
發行者

安西理三郎

東京市四谷區本村町九番地

印刷者

齋藤仙吉

東京市芝區新錢座町十番地

印刷所

近藤商店活版所

東京市芝區新錢座町十番地

發行所

菊地屋

軍事學指針社

東京市四谷區本村町九番地

振替貯金口座東京九〇三一番

▲有爲の見習士官 全一冊 定價金拾貳錢 郵税金貳錢

▲實際的歩兵各分隊教練 全一冊 定價金貳拾錢 郵税金四錢

▲日獨騎兵戰術對照義解 全一冊 目下印刷中

▲歩兵操典第二部備忘録 全二冊 定價各冊三拾五錢 郵税金六錢

▲ポケ孫子新釋 全一冊 定價金四拾錢 郵税金四錢

▲ポケ吳子新釋 全一冊 定價金參拾錢 郵税金貳錢

▲ポケ六韜三略 全一冊 定價金六拾五錢 郵税金四錢

原則 是でもわからぬか
問答

各冊(定價金參拾錢) 郵税金四錢

改訂五版第一集 五版第二集 五版第三集 五版第四集 五版第五集

▲歩兵聯隊卜其活動 全一冊 定價金參拾五錢 郵税金四錢

▲最新地形學詳説 全一冊 定價金六拾五錢 郵税金六錢

▲基本射擊教育 全一冊 定價金參拾錢 郵税金四錢

▲命中卜効力 全一冊 定價金五拾錢 郵税金六錢

274
2
23

▲軍隊教育計畫實施進度對照前編正價四拾錢郵稅六錢
後編正價三拾錢郵稅四錢

▲三版兵棋必携附錄(行軍長徑一例)
兵機隊標一覽定價金貳拾五錢
郵稅金四錢

▲最新兵器學全一冊定價金八拾錢
郵稅金四錢

▲兵卒教育學科問題集全一冊定價金拾五錢
郵稅金四錢

▲夜間演習教育方案全一冊定價金三拾錢
郵稅金貳錢

東京市四谷區本村町九番地

發行所 菊地屋 軍事學指針社

振替口座東京九〇三一番

終

